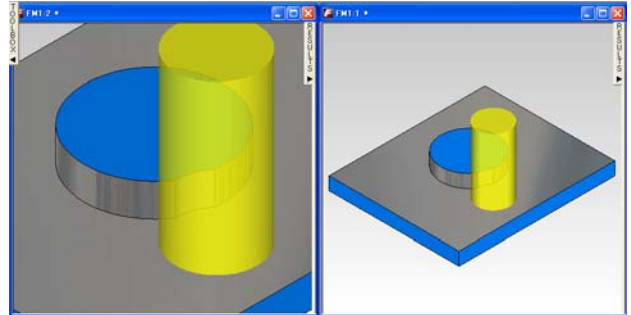




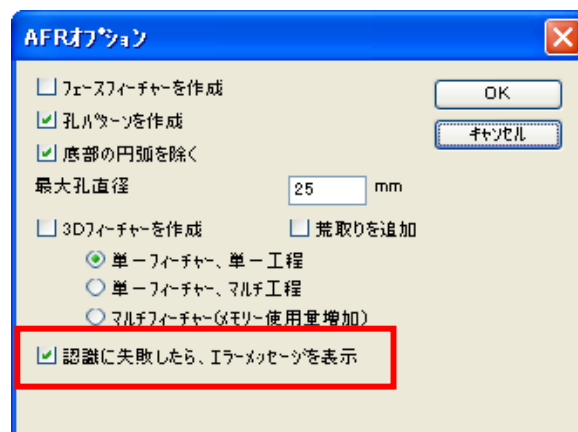
## ▪ その他

- ToolBox に「参照」追加
- 3D シミュレーション デュアル表示
- 工具送り速度&回転数にデフォルトを使用



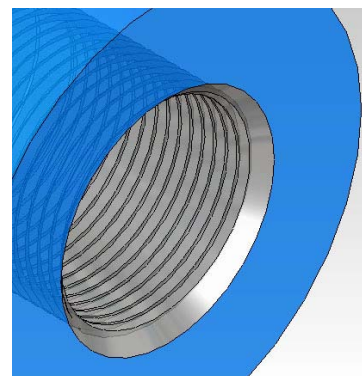
## ▪ 改善

- セットアップ間の切替えに要する時間の削減
- フィーチャー編集に要する時間の削減
- ソリッドと STL ファイルを素材として扱う場合のメモリ使用量の改善
- 3D シミュレーションが、前バージョンより約 30%速くなりました
- 工具加工トレランスをより細かくしました
- PowerSHAPE(.ddx)ファイルの入力が可能となりました
- AFR 性能が向上し、問題が認められた場合にはエラー表示するようになりました
- 工具パス編集フィーチャーに対して任意の工具が適用可能になりました
- 「回転早送り速度」設定で割り出しパーツのより正確な時間想定が可能となりました
- Windows7 に対応しました



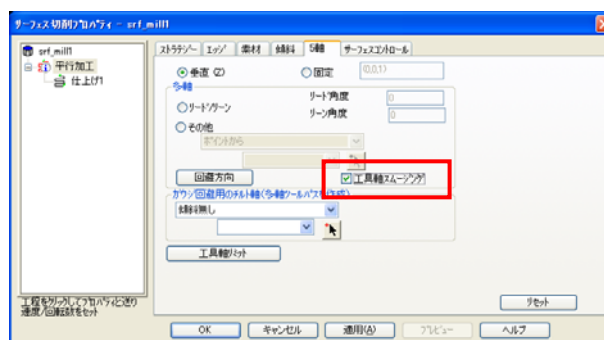
## ▪ FeatureTURN

- ネジフィーチャーの面取り
- 溝フィーチャーと突っ切りフィーチャーに R 指定
- 荒加工にノーズ R 補正



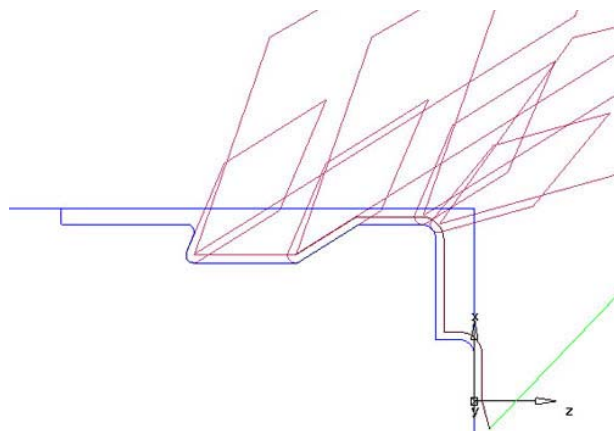
## ▪ 同時 5 軸

- 工具軸スムージング
- 工程ごとの「回転方向反転」
- 「SPATIAL」角度のサポート



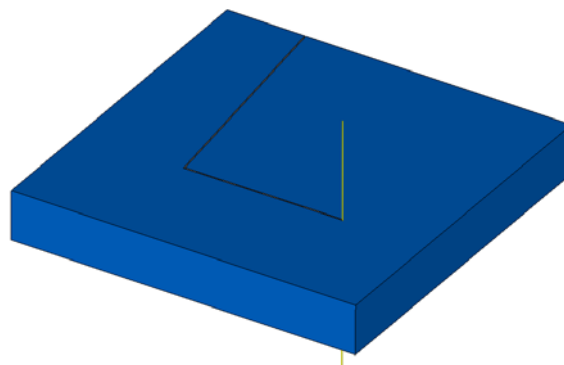
## ▪ MILL/TURN

- B 軸同時制御
- ストックモデル



## ▪ FeatureWIRE

- 便利なスキムカットにおけるリトラクト
- 加工条件項目名称のカスタマイズ
- テーパーオフセットのための自動補正
- 初期設定で描画用のワイヤー直径を表示しない
- 各カーブ毎に全ての工程を加工



## INFORMATION

### FeatureCAM2010 新機能 (追加)

V16.2

#### 大きいフィーチャプロパティズダイアログによる工具タブの向上


フィーチャーのプロパティズダイアログが V16.2 から大きくなりました。これはとり分け、工具タブの選択項目を全て一目で見ることができるようになりました。また、表示項目をマウス操作で限定すると、その項目表示が記憶されます。

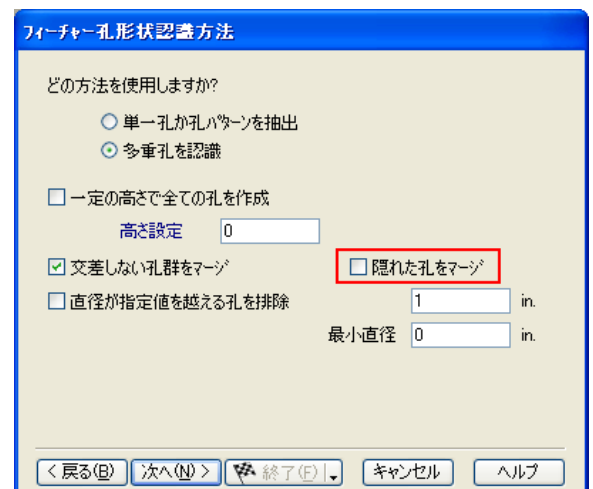


#### IFR(インタラクティブフィーチャー認識): 「隠れた孔をマージ」 オプション

FeatureCAM の以前のバージョンでは、IFR で孔の認識をする際に、「交差しない孔群をマージ」を有効にすると、隠れた孔もマージされました。

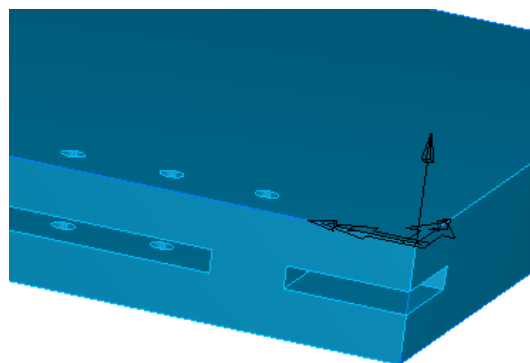
新たに「隠れた孔をマージ」オプションがフィーチャーウィザードに追加されたことにより、必ずしも隠れた孔をマージしなくてもよい設定ができるようになりました。

 「隠れた孔をマージ」の設定は、「交差しない孔群をマージ」を有効にしないと表示されません。もし隠れた孔をマージしたくない場合は、この設定を有効にしないでください。

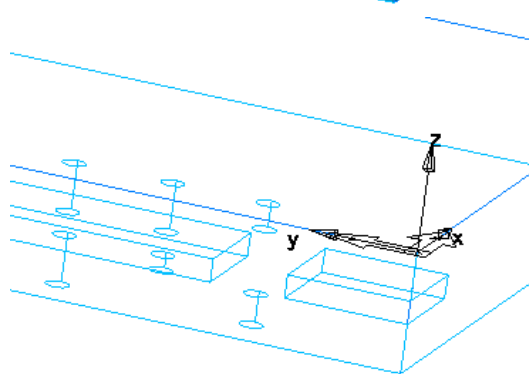


## つながっていない隠れた穴の例

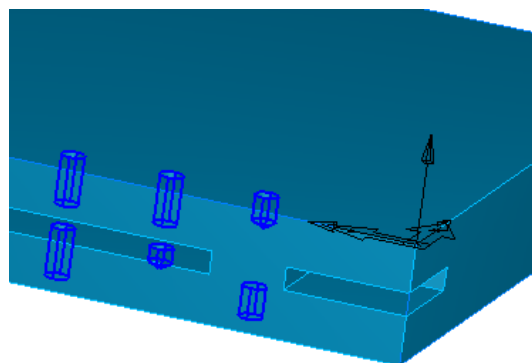
以下は、つながっていない隠れた穴が含まれているシェーディング画像:



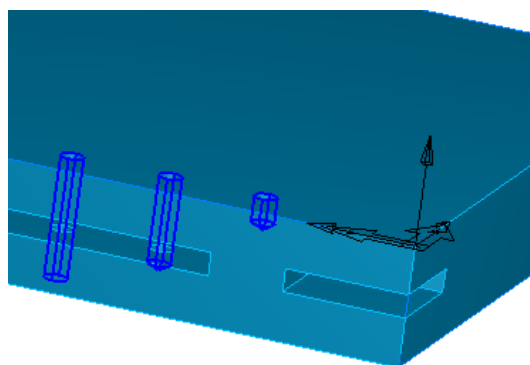
シェーディングを解除:



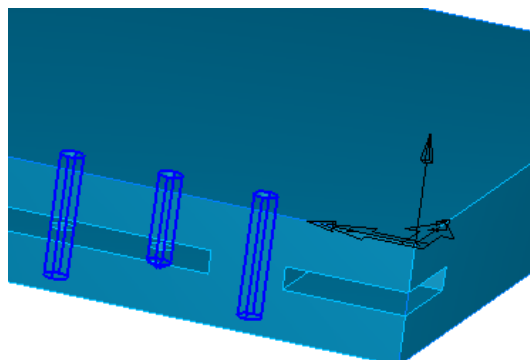
「交差しない孔群をマージ」を選択していない場合、IFR(インタラクティブフィーチャー認識)は図のような結果になります。



「交差しない孔群をマージ」を選択した場合、図のような結果になります。

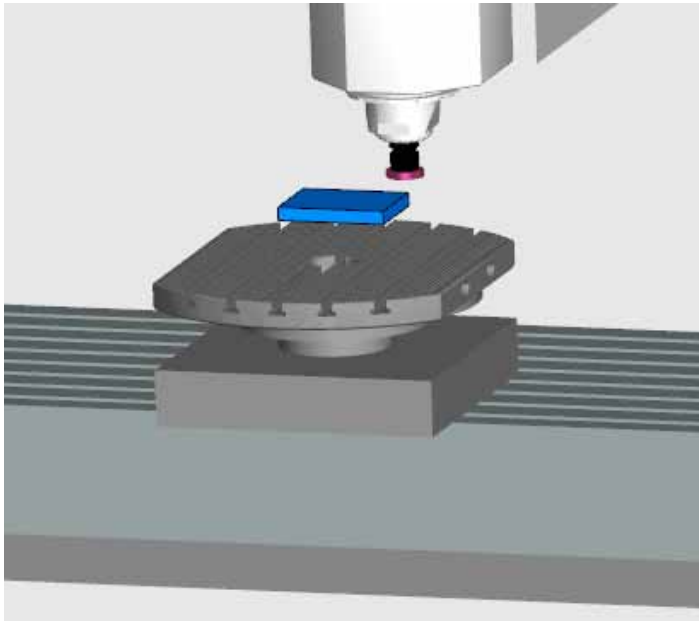


「交差しない孔群をマージ」と「隠れた孔をマージ」両方を選択した場合、図のような結果になります。

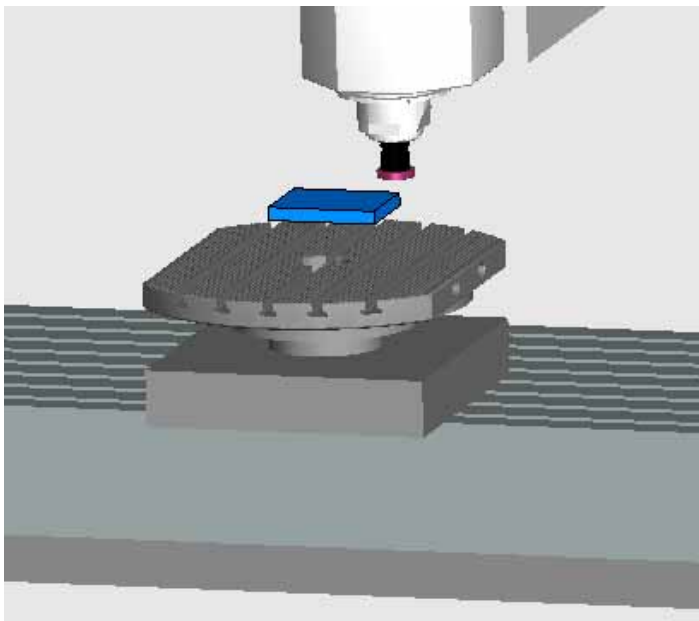


## シミュレーション： 3D とマシンシミュレーションのギザギザ表示を回避

3D とマシンシミュレーションにおいて、表示されている要素のエッジを、より鮮明にすることができます。これはギザギザ表示の回避を設定した場合です。



これはギザギザ表示の回避を設定しない場合です。



回避設定を有効にするには：

1. 「オプション」メニューから「サーフェスシェーディング」を選択し、「シェーディングオプション」ダイアログを開きます。
2. 「グラフィックハードウェア使用」を選択します。
3. 回避設定を有効にするために、「スムーズライン」を選択します。



効果を見るためには、新しいウィンドウにする必要があります。



全てのグラフィックハードウェアが対応しているわけではありませんが、ほとんどが対応しています。

## パート表示における STL 操作メニュー

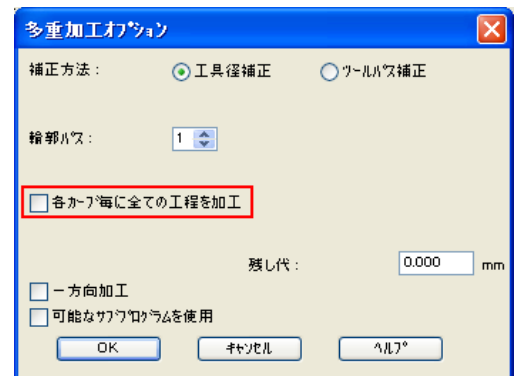
取りこんだ STL ファイルに対しても、図のような操作メニューが使用できます。  
「パート表示」内の STL ファイル名を右クリックしてください。



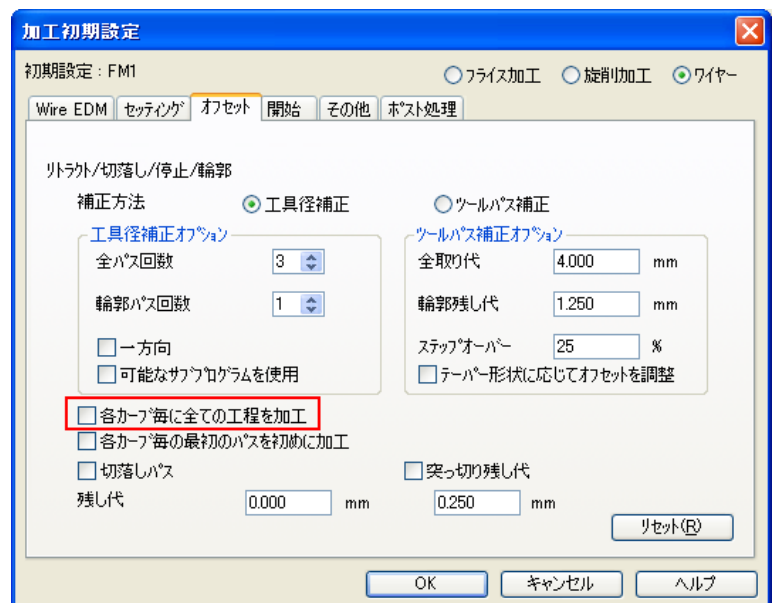
## WIRE: 各カーブ毎に全ての工程を加工

複数輪郭のワイヤー加工で、これまでの初期動作は全ての輪郭に第一工程、第二工程、と順次に行っていくものでした。

今回、それぞれの輪郭に対して、全ての工程が完結してから、次の輪郭へ移るといった設定が可能になりました。「ストラテジー」ページの「多動加工オプション」に「加工カーブ毎に全ての工程を加工」の設定ができました。

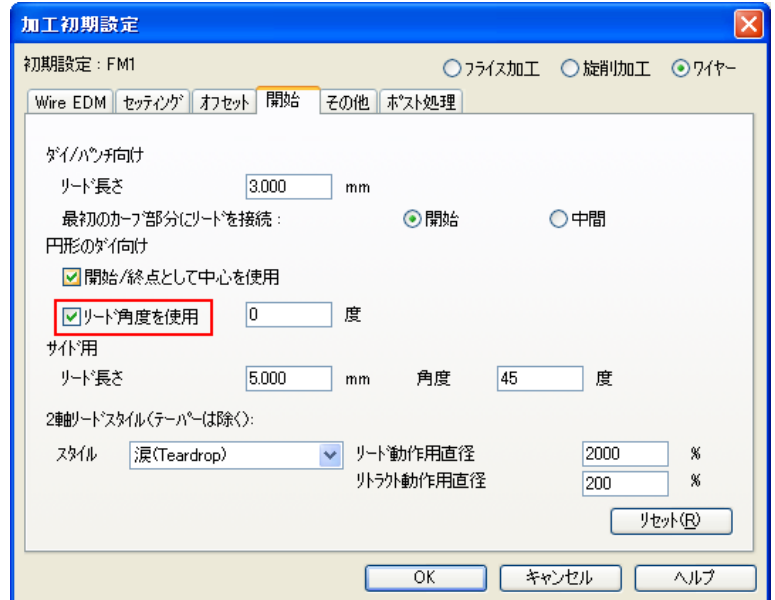


「初期設定」では、「オフセット」タブ上で設定できます。



## WIRE: リード角度を使用

円形のダイフィーチャーで、リード角度の初期設定が可能です。X プラス方向が 0 度となります。「初期設定」の「開始」タブで設定をしてください。



## WIRE: 4軸加工の IFR でサーフェスの選択が容易に

IFR を使用して、4軸ワイヤー加工フィーチャーを作成するとき、サーフェスエッジの選択が容易になりました。ダブルクリック、ならびに Ctrl キー + クリック で、複数のサーフェスエッジを選択できます。以前は、個別のサーフェスエッジをそれぞれ個別にピックしなければなりませんでした。

## V16.3

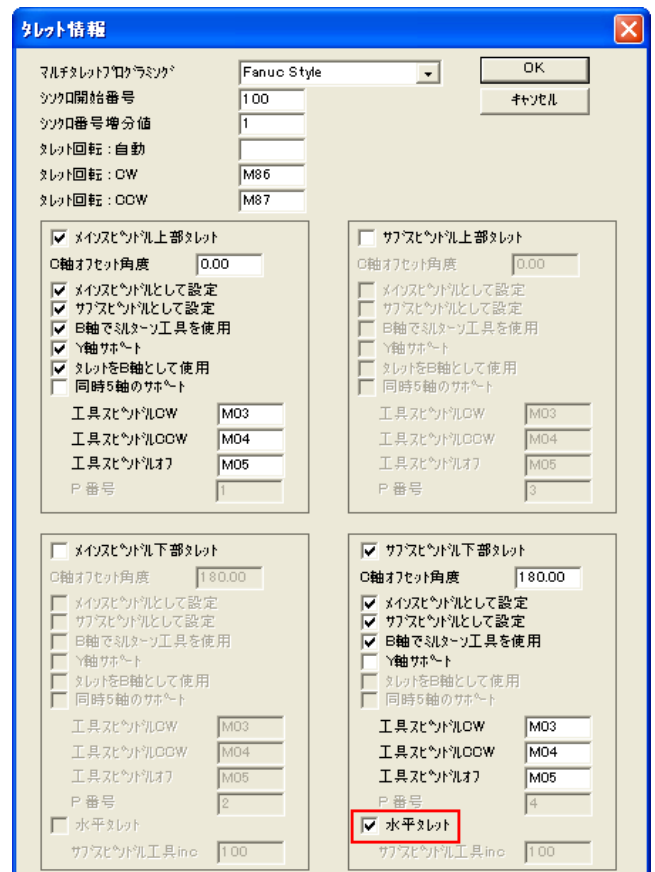
## アドバンス MILL/TRN: 水平タレット

マザックインテグレックスの2タレット機械では、下部水平タレットを持つ機種があります。

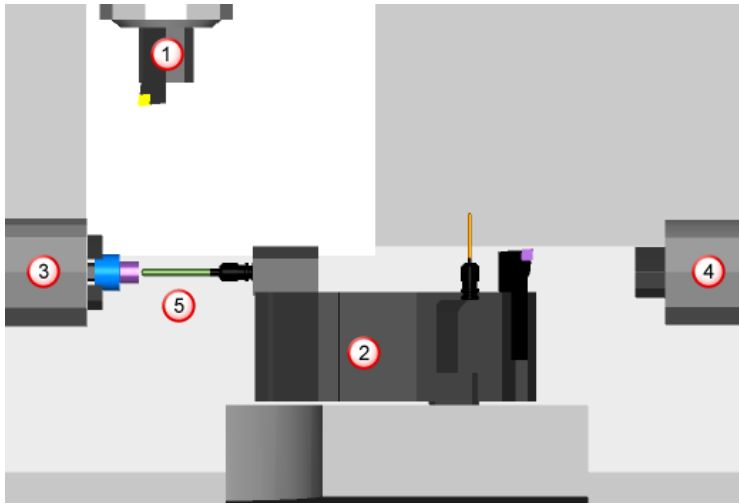
FeatureCAM2010 (V16.3) では、下部タレットが水平であるという設定ができます。XBUILD の「CNC-情報」メニューの「タレット」を選択し、「タレット情報」ダイアログに設定があります。

メインスピンドルとサブスピンドルにおいて、同一の工具を使用することができます。FeatureCAM は機械に対して工具番号の T001 から T101 まで、同一工具をサブスピンドルでも使用するために、タレットを回すように指令します。

図の例は、メインスピンドル上で孔を加工するドリル工具を示しています。

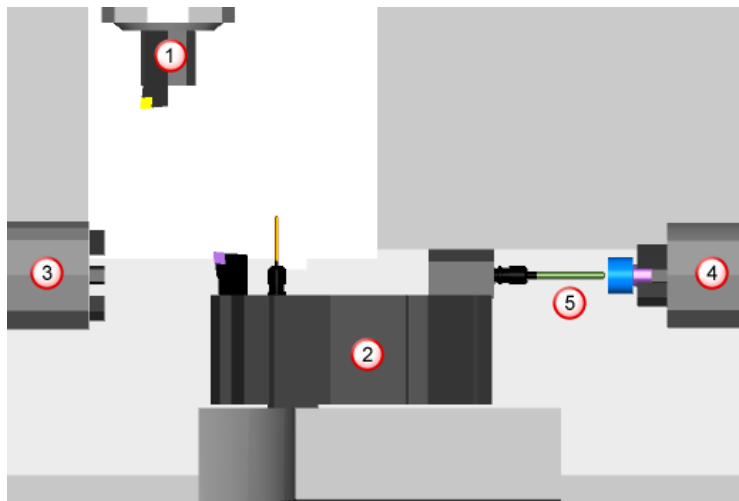







- ① - 上部タレット
- ② - 下部(水平)タレット
- ③ - メインスピンドル
- ④ - サブスピンドル
- ⑤ - ドリル工具


次に水平タレットは回転し、同一の穴をサブスピンドル上でも加工します。




## V16.4

### B 軸付きフィーチャーの座標系変換用基本座標

FeatureCAM2010 (V16.4) では、B 軸付きフィーチャーの「その他」タブ上に新しい設定があります。B 軸付きフィーチャーの座標系原点を設定することができます。「その他」タブの「B 軸フィクスチャー位置」を、 ボタンを使用してグラフィックウィンドウ内で設定します。

 この設定は、フィーチャーが外径上にある場合にのみ表示されます。

 もし B 軸角度が 90 度の場合、XBUILD で「OD 上の B 軸のため座標変換を使用」が有効な場合にのみ表示されます。

 XBUILD で「フィーチャー原点にフィクスチャーをオフセット」が有効な場合にこの設定は有効です。

